

ロバート・フクの三百年

ロバート・フク (Robert Hooke) は英國の大物理學者で、1635年七月18日に生れ、1703年三月3日に没した。教育はエストミンスタ學校と、オックスフォード大學クライスト學院とで受けたが、卒業後ボイル R. Boyle 博士の助手をつとめた後、1662年に、當時新設の學士院 (Royal Society) の實驗部主任 Curator となり、死まで在職した。1677年まで1682年から彼は學士院の主事 Secretary となり、理學集論 Philosophical Collections を出版した。1665年には大學の幾何學のグレンヤム講座教授となり、又、1664年よりはカトラ Cutler 講演講師であつた。

彼は當時最大の機械學者で、其の發明したものは、かの懐中時計のヒゲゼンマイ、アンコア装置、齒車式晴雨計等あり、又、顯微鏡や望遠鏡や空氣ポンプ等に改良を加へた。彼は有名なフクの法則の發見者であり、又、寒暖計の0點に氷點を採用した人である。彼れはオリオン星座のベルト中に二つの星を發見した。彼の光學や燃焼の理論の中に多くのモダンな學説を豫言した。其の「顯微鏡論」や「カトラ講演」は今は理學書中のクラックであり、其他あらゆる方面に大きい貢獻をした。彼れは實にかの“天才輩出の世紀”中の第一人者である。

ロンドンに大火があつた後、フクは市の測量師の一人に任ぜられ、重要な若干の建築を擔當した。サー・クリストフ・レンと共に、彼は市の再建に主力を費し、中にも、ベトラム病院や、モンタグ館や、醫科大學等の建築を監督した。

彼れが記した1672年八月から1680年十二月までの日誌はロンドンのギルド・ホールに保存されてゐるが、之れは彼の行蹟を知るために大切なだけでなく、當時の社會——殊に學士院やグレンヤム學院の狀況や、多くの友人社會のこと等を知る資料として重寶がられてゐる。本年之れは Taylor & Francis から出版された。